

教育委員会会議録（12月定例会）

日 時

令和元年12月20日（金）
午後1時30分から午後2時45分まで

場 所

日立市役所 庁議室

出席委員

教育長	中山 俊恵
教育長職務代理者	中村 雅利
委 員	上村 由美
委 員	朝日 華子
委 員	土屋 静治

委員以外の出席者

教育部長	窪田 康德
総務課長	松本 正生
学校施設課長	石川 涉
学務課長	中島 修
生涯学習課長	庄司 和江
スポーツ振興課長	木下 俊雄
指導課長	森山 秀一
指導課課長	稲田 訓子
郷土博物館長	豊田 瑞穂
記念図書館長(兼)視聴覚センター所長	山田 美幸
教育研究所長	小池 洋一
北部学校給食共同調理場長	荒川 敏明
子ども施設課長	寺山 一男
総務課副参事(兼)計画財務係長	酒地 康彦
総務課課長補佐(兼)庶務係長	鷺 秀哉
総務課主幹	吉野 成実
総務課主幹	芳賀 秀人

議 事

報 告

報告第12号 教育委員会11月定例会の会議録について

その他

- (1) 令和元年第4回市議会定例会について
- (2) 令和2年度日立市奨学生の募集について
- (3) 令和元年度日立市優秀教職員等褒賞事業の被褒賞者について
- (4) 日立市教育プラザの休館日における施設の一部利用について
- (5) 第66回日立市教育論文応募状況及び審査結果について
- (6) 令和2年度日立市立幼稚園等の園児募集の結果等について
- (7) 教育委員会関連行事等について
 - ア 第32回日立市民凧あげ大会の開催について
 - イ 第20回日立さくらロードレースの出場者募集について
- (8) その他

会 議 の 概 要

1 開 会

教 育 長 それでは、只今から12月の教育委員会定例会を開催します。
本日は、傍聴希望者が1人おります。
傍聴を認めてよろしいでしょうか。

全 委 員 結構です。

(傍聴人入室)

2 報 告

報 告 第 1 2 号 教育委員会11月定例会の会議録について

教 育 長 それでは、まず、報告第12号について御意見を伺います。
いかがでしょうか。

全 委 員 特にありません。

教 育 長 それでは、本件については、承認されました。

3 そ の 他

(1) 令和元年第4回市議会定例会について

教 育 長 続きまして、その他に移ります。
その他(1)について、教育部長から説明をお願いします。

教 育 部 長 令和元年第4回市議会定例会は、令和元年12月5日から18日
までの14日間の会期で行われました。

質問及び答弁の概要について説明します。

まず、一般質問については、議員8名から御質問をいただきました。
一部抜粋して御説明いたします。

最初に、今野 幸樹 議員です。

台風・大雨等への対応について、大雨及び強風等の恐れがあること
から、前日、学校を2時間登校とするとした判断を、当日朝に臨時休校に
変更したことについて、課題と今後の対応について伺いたいというものでした。

こちらに対しましては、メールや文書により事前に通知を行うなど、丁寧な予告に努め、それらの通知が各家庭に伝わったことを把握できる方策についても、調査・研究を進めていく。また、一方で、やむを得ず、急に判断を変更しなければならないことが今後もあり得るものと考えているため、児童クラブ等の福祉施策との連携も視野に入れ、協議、検討していく旨答弁しました。

次に、藤森 結花 議員です。

ライフデザインについて、充実した人生のために、学校教育の中で、自分の人生を長期的視点で考え、大きな分岐点(ライフイベント)において、自立に向けた選択をするためのヒントとなる学習が必要と考える。日立市の教育における取組を伺うというものでした。

これに対しましては、新学習指導要領では、10年後の社会を見据え、社会的な自立を目指していること、また、本市では、学校教育の推進テーマである「いいとこ発見 夢づくり」に基づき、自己肯定感を高める教育と、たくましく未来を切り拓く子どもの育成を目指している。その具体例として、中学2年生の職場体験学習や男女共同参画についての学習などについて力を入れている。今後も学校教育の中で、知・徳・体を総合的に育成し、地域とともに子どもの成長を支えていく旨答弁しました。

次に、白石 敦 議員です。

スポーツによる賑わい創出について、スポーツ合宿は、春休みと夏休みを中心に実施されるが、春には桜、夏には海水浴という本市の観光資源について、産業経済部もPR活動を展開している。そこで、観光資源とスポーツ合宿を融合させた、PR活動の取組が必要と考えるがいかがかという御質問でした。

これに対しましては、観光物産協会等と共に県外で本市のPRを行う観光キャラバンと併せて広報を行うなど、観光施策とも協調しながらPR活動を進めていく旨答弁しました。

また、スポーツ施設の充実について、中里スポーツ広場は、冬季はグラウンドの状態が悪く、ほとんど利用がない。人工芝生化することで、利用促進が図られ、中里地区の活性化も期待できると考えるがいかがかという御質問でした。

これに対しましては、旧中里若者センターの部分も含めた敷地全体の活性化策として、グラウンドの人工芝生化の可能性について検討していく旨答弁しました。

次に、市民運動公園陸上競技場は、陸上競技のほか、サッカー、ラグビーの大会が開催されているが、天然芝生のため、養生期間など利用の制限が必要となっている。人工芝生化を検討してはどうかという御質問でした。

これに対しましては、人工芝生は、競技ごとに適・不適が生じる

ことがある。また、天然芝生に比べて、夏場は熱を持ち易いなどの課題もあることから、天然芝生の競技場にも需要があるものと考えている。今後、人工芝生の製品開発の状況を注視しつつ、他都市の事例、競技団体等の意見も参考にしながら、研究・検討を進めていく旨答弁しました。

次に、夏場の熱中症対策として、スポーツ広場に救護室を整備する必要があると考えるがいかがかという御質問でした。

これに対しましては、競技者の健康と安全を守るため、今後、各スポーツ広場の管理棟に救護室の機能を整備していく旨答弁しました。

次に、千葉 達夫 議員です。

市独自の奨学金制度の実績と今後について、まず、日立市奨学金制度の貸付者数と貸付金額を伺うというものでした。

これに対しましては、本年度の新規貸付者数は、専門学校が2名、大学が19名の合計21名で、継続貸付者を含めた人数は、高校が1名、専門学校が3名、大学が65名の合計69名、本年度の貸付金額は、合計で約4,100万円である旨答弁しました。

次に、補助対象者の人数についてです。こちらについては、対象者の人数は、平成29年度は5名、平成30年度は前年度からの継続5名に新たな6名を加えた11名である。本年度から、「日立市奨学生医療・介護・福祉職就業支援補助制度」が創設され、最大で返還金の全額が助成されることから、広くPRをしていく旨答弁しました。

次に、日立市奨学金制度の今後の方向性についてですが、本年4月に、貸付者等を対象にアンケート調査を実施したところ、国の奨学金に比べて利用しやすいとの意見が多く、おおむね高い評価が得られた。また、国においては、来年4月から給付型の奨学金が拡充され、日立市奨学金と併給することができるので、今後も、国や民間の奨学金の動向を注視しながら、更に利用しやすい奨学金を目指していく旨答弁しました。

次に、篠田 砂江子 議員です。

安全安心な学校生活を送るための環境づくりについて、本年度学校に設置したエアコンは冷房用として使用し、暖房は従来通り石油ストーブを使用すると聞いている。ストーブの設置前や撤去後の寒い日に、エアコンを使用できるよう、柔軟な対応が必要と考えるがいかがかという御質問でした。

これに対しましては、ストーブの設置期間を実情に合わせることで、必要に応じてエアコンの暖房機能を使用することについて、改めて学校に通知をし、柔軟な運用を促していく旨答弁しました。

次に、児童生徒は水分補給のため、水筒にお茶や水を入れて学校に持参しているが、暑い時期は、午前中のうちに水筒の中身が空に

なってしまうこともある。大阪府寝屋川市を例に挙げ、熱中症予防の観点からも、冷水機の設置など、学校内で冷水を補給できる方法を検討する必要があると考えるが、いかがかという御質問でした。

こちらに対しましては、冷水機の導入については、機器の衛生管理や設置台数、導入コストなどの課題もある。他市等の導入事例もあるので、まずは、本市での導入の可能性について、調査・研究していく旨答弁しました。

次に、緊急時の各家庭への連絡方法について、こちらは今野議員の御質問と重なる部分ではございますが、保護者がメールに気付かずに、児童生徒が登校したケースがあったため、各家庭の戸別受信機から情報を流してはいかがかという御提案でした。

こちらに対しましては、大変有効と考えますので、早急な実施に向けて、協議・調整していく旨答弁しました。

次に、瀬谷 幸伸 議員です。

日立市における児童・生徒のむし歯予防の推進のため学校でのフッ化物洗口の集団的实施を推奨することについてで、今年3月の市議会定例会における日立歯科医師会の陳情の採択から約9か月が過ぎたが、この間、どのような検討を行ったのか。その現状について伺いたいという御質問した。

こちらに対しましては、現在、フッ化物洗口の集団実施に向け、日立歯科医師会や学校現場と協議を重ねており、課題も明らかになってきたところであり、保護者からの問合せへの対応など、専門知識を持たない教職員にとって、新たな業務に対する不安の声も聞かれているなどの現状を報告いたしました。

次に、館野 清道 議員です。

中里中学校は、川岸側に2階建ての校舎を建設すると聞いているが、今後、台風による豪雨が大きくなることが予想されることから、川岸側への校舎建設の見直しをすべきと考えるがいかがかという御質問でした。

こちらに対しましては、配置計画の策定に当たって、県が公表する里川の洪水浸水想定区域に含まれていないことを確認している。また、里川の通常水位は40センチから50センチであり、そこから学校敷地までは、更に約6メートルの高低差があることから、里川の水害の危険は極めて小さいとの判断に至っている。今回の台風で上昇した水位は、最高で約3メートルであったので、今後、同程度の降雨量があった場合でも浸水の恐れはないものと考えているが、近年、異常気象が頻発していることから、現状の敷地から更にかさ上げして建設する計画である旨答弁しました。

次に、伊藤 智毅 議員です。

まず、学校統廃合（適正化）検討の進捗内容及び今後の作業スケジュールについて伺いたいという御質問でした。

こちらについては、今年度は、学校再編の全体像と今後10年間の具体的な取組内容を明らかにする「(仮称)学校再編計画」の策定に向けて進めており、子どもたちに、より良い教育環境を整えることを第一に、スピード感をもって、取り組んでいかなければならない。市民の皆様に関心も高く、多くの御意見をいただけるものと思うので、策定期間は年度内を目途としているが、柔軟に対応していく必要があるものとする旨答弁しました。

次に、特別支援学校の方向性として、県への移管についての協議状況について御質問がありました。

移管については、県の財政負担を伴うことから、引き続き協議が必要な状況であり、校舎については、老朽化が著しいため、建替えを視野に入れた整備が必要と考えている。一方で、児童生徒の障害の重度化や医療的ケアを必要とする子どもたちの増加に伴い、新たな課題も生じている。受け入れ対象や学校規模など、学校の在り方について、改めて検討した上で、速やかに施設整備を進めていきたいと考えている旨答弁しました。

次に、学校教育現場の諸環境について、日立市の児童生徒の学力はどのようなレベルにあるのか。現状と今後の対応や対策、展開方向について伺いたいという御質問でした。

こちらに対しましては、本年度の全国学力・学習状況調査では、ほぼ全ての項目で県平均、全国平均を上回った。各学校において、「いいところ発見 夢づくり」を合言葉に、良さを認め、伸ばす教育に努めてきた成果であると捉えている旨答弁しました。

次に、いじめや不登校の現状や経年変化はどうなっているか。今後の対応や対策、展開方向について伺いたいという御質問でした。

こちらに対しましては、いじめの認知件数は年々増加しており、増加の要因は、小さな訴えでも積極的に認知したことによるものであり、今後も早期発見と丁寧な対応に努めていく。不登校については、昨年度末時点で小学校で微増、中学校でほぼ横ばいの傾向である。不登校の要因や背景は様々であるが、全ての子どもたちが安心して学校生活を送るために、一人一人の良さが発揮できる学校づくりを進めていく旨答弁しました。

次に、神戸市の教職員間における犯罪的ないじめの問題について、課題をどのように認識し、対策を考えているか伺いたいという御質問でした。

こちらに対しましては、絶対にあってはならないものであると認識を示した上で、本市では、各学校において、校長による個人面談、ストレスチェックや産業医による面談などにより、教職員の不安や悩みなどの把握に努めるとともに、ハラスメント研修を定期的開催している。今後、教育委員会に教職員が直接相談できる窓口を設けるなど、更なる取組も進めていく旨答弁しました。

次に、教職員の超過勤務が明らかになっているところであるが、課題をどのように認識し、対策を考えているか伺いたいという御質問でした。

こちらに対しましては、昨年の教職員の勤務実態調査では、全国的な傾向と同様に、長時間勤務となっていることが明らかになった。本市では、教職員の負担軽減のため、人的支援に加え、スクールロイヤーによる相談体制の整備、校務支援や勤務管理のシステム導入などに取り組んできた。勤務管理システムについては、勤務時間が可視化されたことで、自らの働き方を改めて見直す契機になったとの声も届いており、今年度には、超過勤務時間が減少傾向となるなど、徐々にその成果が見えてきた。子どもたちが未来への夢を描くことができる学校づくりのためにも、教職員が、心身ともに健康で、活力を持って教育に携わることを願っている旨答弁しました。

議案質疑につきましては、議員2名から御質問をいただき、それぞれ答弁をさせていただきました。

教育福祉委員会について、教育委員会関係では、議案第87号令和元年度日立市一般会計補正予算について、御審議いただき可決されました。

委員 今回は教育関係の一般質問が非常に多かったと思います。それぞれぜひ前向きに進めていただければと思います。

藤森議員の質問の中で、「自立に向けた選択をするためのヒントとなる学習が必要と考える。」とありました。私も同感で非常に大切なところだと思います。また、これはキャリア教育そのものだと思います。

義務教育9年間を見通した体系的な計画に基づいて進めていくことが大事だと思いますし、冊子「日立の学校教育」にもキャリア教育について、「児童生徒の発達段階に応じた、体系的・系統的なキャリア教育の推進」という記載もありますので、各学校でぜひ進めていただきたいと思います。

そこで、キャリア教育について、学校現場での具体的な実施状況について教えていただけますか。

また、教育委員会では「未来パスポート」が活用されていますが、「未来を生きる 君たちへ」という中学生向けの副読本もあります。現在も中学生に配られているのかどうか、活用状況について伺います。

指導課長 本市のキャリア教育については、子どもたちが身近な問題を自分たちで解決していこうとする話し合い活動の充実を図っています。

教育委員会の事業の中では、中学1年生の特別活動推進事業とし

て、心豊かな体験活動を行い、子どもたちが中学校に入学して人間関係を作っていく上で、非常に効果がある授業として実施しているところでは、

来年度から新学習指導要領の全面実施となりますが、すでに特別活動については各学校で実施しておりますので、小学校のうちからより良い人間関係の形成、男女相互の理解と協力、社会参画意識の醸成、将来設計など9年間の中で子どもたちに意図的に活動の場、活躍の場を与え、意識させていくという取組を行っております。

また、市の教育研究会の中でも、特別活動研究部がありますので連携し、例えば夏休み期間中の児童生徒交歓会では、生徒会の子どもたちを集め、昨年は携帯・スマホのルールを各学校で作成し、お互いに発表・意見交換を行うなどの取組を行っております。

副読本「未来を生きる 君たちへ」については、初版が平成15年3月で、現在も女性青少年課から中学1年生向けに配布しており、主に学級活動において活用されております。大きな柱として、「家庭は共生の始まり」「学校・地域は社会への第一歩」「自立するために」と3つあります。

キャリア教育のゴールとして、子どもたちが社会的に自立ができるという部分が重要になります。家庭・学校・地域の中で、自分が果たすべき役割、男女の性差を超えた協力について学ぶ非常に有効な資料であると認識しておりますし、中山教育長から子どもたちに向けた「いいとこ発見 夢づくり」の温かいメッセージも入っております。

この副読本については、今後も引き続き効果的に活用してまいりたいと考えております。

また、「未来パスポート」についてですが、新学習指導要領の中にキャリア教育の視点で各市の実情を踏まえた「キャリアパスポート」を活用し、自分の成長を振り返り、将来設計を考えるよう国から示されております。

日立市としては先行的に「未来パスポート」を活用しており、国から示されているものと重なる部分も多くありますので、子どもたちに必要な力を育み、夢を実現させていけるよう活用していきたいと考えております。

教 育 長 未来パスポートについては、県との整合性も図る必要があると思いますので、よく整理していただければと思います。

委 員 そうすると改訂版についても考えているのですか。

指 導 課 長 今年度改訂を行い、国・県との整合性を図ることについても認識しているところですが、県からは日立市の未来パスポートについ

て、日立市の特色として引き続き活用してほしい旨話をいただいているところです。国・県のを参考にしながら、より良いものにしていきたいと考えております。

委員 篠田議員からの質問にあった、子どもたちの水分補給に関することです。

冷水機の設置は熱中症予防の観点からも大事だとは思いますが、まずは子どもたちが自分の体は自分で守るという基本的な考え方についても、ある種自立の一つではないかと考えます。

自分の体調管理をはじめ、友達が体調悪ければ休んだ方がいいよという声掛けができるような学級づくりや家庭での子どもに対する向き合いの方が、優先的に行われるべきではないかなと個人的には思います。

指導課長 子どもたちの健康面を配慮するために、水筒を持たせることで熱中症予防に効果がある一方、水筒の持ち運びによる荷物が増えるという心配もあります。

委員おっしゃるとおり、家庭における教育の部分も重要だとは思いますが、そのような各学校の課題を話し合う場として、今年度は全小学校で学校運営協議会を設置しております。

子ども、家庭、地域に関わる課題をそれぞれの代表の方々が協議する場が設けられております。

ぜひ学校運営協議会の話題として提供できるよう、こちらから働き掛けて協議していけると、各校の持つ課題がより深く学校に伝わっていくのかなと考えております。

学校施設課長 冷水機について、寝屋川市の事例などに衛生管理もしやすい非常に良い設備があるとは聞いているところですが、市としての優先度の面から考えて、検討が必要かなと考えているところです。

また、学校数も多く、1校1台としても、40台以上の設置が必要となります。まずは水道の水について、喉が乾いたら飲むということを推奨してくというスタンスで現在は考えているところです。

(2) 令和2年度日立市奨学生の募集について

教育長 それでは次に、その他(2)について、総務課長から説明をお願いします。

総務課長 まず、募集人員です。
例年と同様に、高等学校奨学生6人、大学奨学生30人を募集い

たします。

選考方法は、学校から提出される推薦書等と面接により選考いたし、募集期間は、2月を予定しております。スケジュールですが、今月、各学校に募集要項等を送付するとともに1月に市報で広報いたします。

2月の募集期間を経まして、3月に面接、選考委員会を開催しまして、奨学生に採用される方を対象とした貸付説明会を予定しております。

全体的にスケジュールがタイトとなっており、この点に関しましては、本年5月の教育委員会協議会で報告しました奨学金利用者アンケートでも御意見をいただいた経過があったことから、募集時期を早めるなどの検討をしたい旨御説明をいたしました。

その検討のため、奨学生への応募が多い、市内の高校1か所を訪問し、御意見をヒアリングしました。

学校側からは、大学入学共通テストや私立の一般入試の時期と重なり、生徒の負担が大きいこと、教員のほうも、大学入学共通テストの結果を受け、その後の出願指導があり、負担が生じるといった御意見をいただきました。

それを踏まえ、今回については、従前のスケジュールで進めることとしたところです。

引き続き、募集時期をもっと早めることや世帯の収入要件の在り方など、より利用しやすい制度となるよう、取り組んでまいります。

(3) 令和元年度日立市優秀教職員等褒賞事業の被褒賞者について

教 育 長 それでは次に、その他(3)について、学務課長から説明をお願いします。

学 務 課 長 この事業は、本市教育の振興発展に寄与した学校及び教職員を褒賞することにより、教職員の勤務意欲を向上させるとともに、先進的な実践の共有化を図り、もって本市教育の振興を図るため、平成22年度から実施しているものです。

対象となるのは、学校の部が市立小学校、中学校、特別支援学校及び幼稚園で、教職員の部は、学校・幼稚園に勤務する教員及び職員とし、常勤、非常勤及び臨時職員を問わないこととしています。

授賞者については、日立市優秀教職員等褒賞規程に基づく各分野で、特に顕著な成果を上げている学校・教職員について、教育委員会事務局の部課所長で構成する審査委員会が審査及び内申し、教育長が決定したものです。

今年度は、学校の部で8校、教職員の部で9人を表彰いたしました。

た。

学校の部では「学習指導」の分野が最も多く7校、残り1校は、「学級・学年・学校経営」の分野での表彰でした。

教職員の部では、「学習指導」が3名、「学級・学年・学校経営」が2名、健康教育と特別支援教育の分野でそれぞれ大きく貢献した教員に1名ずつ、学校事務員と学校用務員に1名ずつ、それぞれの立場で残された業績が評価されました。

なお、表彰は教育長名で行い、表彰式は1月17日（金）の第2回学校長・園長連絡会議後に執り行います。

委員 今回の受賞校8校については、その成果をぜひ他校にも横展開をしていただきたいし、横展開をするための仕組みづくりについても御検討いただければと思います。

受賞理由に「取組成果を県内各校に発信した。」とありますが、少なくとも日立市内におきましては、どのように他校に展開されているかというフォローも必要なのではないかと思えます。

指導課長 現在市内では、授業力ブラッシュアップ研修において、国語・算数・数学は宮田小学校、楡形小学校、久慈中学校、外国語は仲町小学校が推進校として取り組んでおります。

また、遠隔教育・プログラミング教育では塙山小学校、少人数教育では駒王中学校と、県北地域では他市をはるかに上回る数多くの学校で先進的な研修を行っています。

どの研修会でも必ず、市内各校から1名担当の教員が来て、授業を見て、研究・協議を行い、その中では各校の実践内容や課題を情報共有し、どういう部分が自分の学校には足りないのか、具体的に協議をしています。

授業の最後には、文部科学省の評価調査官から助言指導をいただき、更にはそれらの内容をホームページ等によりその成果を発信して共有し、各学校の教務主任が集まる研修会においても、成果が上がった取組を共有しております。

教育委員会としてもできる限り学校現場に足を運んで、課題を抱える先生方と寄り添いながら、より良い授業づくりを進めているところですので、引き続き日立市の学力向上に向けて指導助言を行ってまいります。

委員 表彰に関することですが、永年勤続表彰や青少年育成の表彰の時など、被褒賞者がもう少し脚光を浴びるような表彰のされ方を考えていただけたらと思います。

ずっと座っていて、表彰を受けるときだけステージに上がって、ほとんど背中ばかり向けたまま帰ってしまうような状況なので、

もう少し被褒賞者の気持ちを共有できる場所であってほしいと思いますし、子どもたちの表彰の時でも、例えば絵画だったらどんな絵が表彰されたのか分からないことが多いので、スクリーンに描いた絵を映してみるなど、表彰方法を考えていただけるよう要望いたします。

学務課長 御意見ありがとうございます。

表彰を受ける先生方にとっても、自分の功績が見える化でき、子どもたちのために尽力いただきありがとうございますという気持ちを示せるような工夫を、学校長・園長会議の際の表彰式に向けて検討したいと思います。

また、表彰式だけで終わってしまうこともあるので、自分の学校にはこのようなすばらしい先生がいるということ、保護者やPTAの方々にアピールする方法を考えていきたいと思います。

世の中ではどちらかというと、先生方の不祥事のニュースが多い状況です。でもそれはごく一部であって、ほとんどの先生方は一生懸命やっています。学校長会とも連携しながら、先生方の良い取組を発信していきたいと思います。

(4) 日立市教育プラザの休館日における施設の一部利用について

教育長 それでは次に、その他(4)について、生涯学習課長から説明をお願いします。

生涯学習課長 昨年5月に、小・中高校生の利用を想定した学習室を教育プラザの1階に開設しました。利用時間と利用日は教育プラザの開館に合わせて、土日祝日も開館し、年末年始は休館としており、朝9時から夜9時まで利用できるようになっています。

学習室は中高校生の利用が多く、特に、夏休み以降、受験期に向け利用者が増えており、休日及び平日夜間の利用は、常時40人程度とほぼ満席の状態となっています。

年末年始は、施設の休館日となってしまいますが、受験に向け、意欲的に学習する中高校生の学習環境を提供するため、昨年度に引き続き、学習室を開放するものです。

施設の一部利用の概要です。利用日は、12月28日(土)、29日(日)、翌年1月4日(土)の3日間と設定し、利用時間は午前9時から午後5時までとなります。利用場所は1階学習室です。

学習室は44席用意しておりますが、併せてテーブルを設置した談話室も利用可能としております。

委員 実際にご利用している高校生などからも声を聞いたりしましたが、自分の家庭に学習できる環境がない子たちも中にはおり、非常にありがたい場所なのかなと感じています。

年末年始に開館していただくことについて、教育委員会の方に負担はかかっているのでしょうか。

また、昨年度の利用者数についても教えてください。

生涯学習課長 まず、昨年度の利用状況についてです。昨年は、12月28日、29日、30日、1月3日、4日と5日間開設しました。延べ74人の利用があり、1日平均15人が利用していたという状況でした。12月30日と1月3日は利用者が少なかったということもあり、今年度は3日間の開設としたところです。

また、開設に当たる職員の負担ですが、昨年は急な対応となったため、職員1名と教育プラザの管理も行っているシルバー人材センターの職員1名との2名体制で行いましたが、今年度については、シルバー人材センターに委託し、この取組に係る職員の派遣をお願いしましたので、教育委員会の職員対応はございません。

(5) 第66回日立市教育論文応募状況及び審査結果について

教育長 それでは次に、その他(5)について、指導課長から説明をお願いします。

指導課長 応募論文の総数は18編で昨年度と同数でした。

応募者総数は32人で、学校種別で見ると小学校が9校、中学校が6校、年齢別では各年代から応募がありました。

研究分野別では理科が3編出されておりますが、幅広く各教科から応募されています。

本年度の特色と傾向としましては、各年代から応募がありましたが、20代の若手教員の応募が3分の1を占めたこと、小中ともに学習指導要領の重要な視点である「各教科の見方・考え方」や「主体的・対話的で深い学び」などのキーワードをもとに研究した論文が多く見られたこと、今年度の日立市教育研究会総合発表会での発表をまとめた論文があり、年間を通して研究してきたことがうかがえたことが挙げられました。

今後の課題としましては、論文は、研究の主題、仮説、内容、検証方法、成果、課題とまとめていくこととなりますが、主題とまとめの部分に若干ずれがあるとか、検証方法に客観性が確保されていないとか、一貫性が十分でない論文や検証の部分にやや主観が入っ

てしまったものについては、研修が必要かなと感じました。

学校長会や教育研究会とも連携を図り、若い先生方も課題意識を持って取り組んでいますので、その実践内容を共有していければと思います。

最後に、入賞論文について紹介します。

最優秀賞は十王中の柳下教諭、研究分野は外国語で、研究主題は「話す力の向上を図る英語科学習指導法の研究」でした。

優秀賞は2編で、成沢小の西野教諭（社会）、埴山小の佐藤教諭（特別支援教育）でした。

優良賞は、小学校3校、中学校3校でした。

他の学校でも取り入れられる、非常に貴重な実践がなされておりますので、今後論文集を各校に配布し、今後の各校の取組にいかしていければと考えております。

(6) 令和2年度日立市立幼稚園等の園児募集の結果等について

教 育 長 それでは次に、その他(6)について、子ども施設課長から説明をお願いします。

子ども施設課長 9月の定例会において、公立幼稚園・認定こども園の令和2年4月入園の募集計画について御説明しました。本日はその結果について報告いたします。

今回の募集では、豊浦幼稚園及び金沢幼稚園は令和3年4月から休園予定のため、4歳児クラスの募集を停止しておりました。また、(仮称)はなやま認定こども園は、令和2年4月に埴山幼稚園とかねさわ保育園が統合し、認定こども園として開園します。さらに、高鈴幼稚園及び水木幼稚園は、令和2年4月から休園のため募集を行わないこととしました。

その結果、合計10の幼稚園等について園児募集を行い、4歳児クラスのみ54人の入園希望がありました。

当初は、会瀬幼稚園が2人、滑川幼稚園が2人、中小路幼稚園が3人の申込がありましたが、申込人数が少なく、それぞれの保護者に申込状況をお伝えし、入園後、一定規模の集団活動を確保する環境を整えることが難しい場合もあることを御説明し、他の園に申込変更をお願いした方もおりました。しかし、滑川幼稚園の1人、中小路幼稚園の2人の申込者は、少人数でも入園したいという御意思を確認しております。

進級児を含む令和2年3月の園児見込み数は151人で、前年比61人の減少となっております。

私立幼稚園・認定こども園についても、同時期に募集を行い、私

立幼稚園8園、認定こども園12園の合計20園で423人、前年比75人の減少、継続入園を含む来年4月の園児数の見込みは1,379人、前年比140人の減少となっております。

そのような状況から、令和2年4月以降の市立幼稚園の適正配置等については、少子化が進行する中で幼稚園教育においては一定規模の人数での集団活動を確保する環境が不可欠との考えから、適正配置計画を一部前倒しで実施することとし、まず、会瀬幼稚園は、令和2年4月から園児数が0人となるため休園とします。滑川幼稚園と中小路幼稚園の4歳児クラスは、令和2年度は5歳児クラスとの混合保育等で対応し、令和3年4月の進級の際に、統合を予定しているみやた認定こども園に転園していただきます。滑川幼稚園及び特別支援教室を除く中小路幼稚園は、これまでの計画から1年前倒しして、令和3年4月から休園とします。なお、途中転園については、申込済みの保護者の方に確認を取っております。併せて、現在、休園中の中里幼稚園、南高野幼稚園は、令和元年度末で閉園とする計画です。

委員 入園希望者が大分減ってきているという印象を持ちました。認定こども園はそれなりに入園希望者がいるという状況にあり、今後、認定こども園を増やしていくのかどうか、その辺りの見通しについて、現段階で考えているところをお聞かせいただけますか。

子ども施設課長 認定こども園については、現在、みやた認定こども園と来年4月に開園するはなやま認定こども園の2つの認定こども園化までしか、現在のところ計画はありません。

公立幼児施設の適正配置について、市の考え方を改めて御説明させていただきます。基本的な考え方は、平成25年に日立市幼児施設のあり方検討会議から提言をいただき、市全体の公共施設マネジメント基本計画に定めておりますが、主に3つの基本的な考えの下に進めております。

まず1つは、公立幼児施設については、公立から私立への移行を前提として、公立幼児施設においては児童の受入れ枠をその分調整する。2つ目は、定員の見直しや統合、認定こども園化により、地域の拠点となる施設を残しつつ、適正配置を考えていく。3つ目は、拠点となって残っていく園については、拠点機能の充実に加え、特別な支援が必要な幼児の積極的な受入れ体制を整備する。以上3点の考え方に基づいて進めているところです。

子ども施設課としましては、櫛形幼稚園、田尻幼稚園、大沼幼稚園、みやた認定こども園、はなやま認定こども園、この5園については、今後も継続する考えで施設整備を行っていくところです。

しかし、幼稚園希望者が減少している中にあり、園の存続をどの

ようにするか考えていかなければならないと認識しております。

幼児教育については、引き続き市が担っていくべきなのか、また、市が担っていくのであれば、例えば3年保育であるとか、通園バスを出すとかという施策についても、今後教育委員会と議論を深めていきたいと思っております。

本年10月から幼児教育・保育の無償化として、原則3歳児クラスから授業料が無償となっております。それにより、幼稚園から保育園へと希望する保護者の方が多くなっているという流れがあります。先日来年4月の保育園入園希望者の受付を行ったところ、昨年の553人に対し、今年度は610人と約60人増加しています。こちらについても良く考慮しながら、検討を進めてまいります。

委 員 そうしますと、認定こども園については、みやたとはなやまの2園で当面運営していくという考え方で良いのですね。

子ども施設課長 はい。現在の計画においてはそのようになります。今後、状況に応じて検討する必要もあると思っております。

(7) 教育委員会関連行事等について

教 育 長 それでは次に、教育委員会関連行事等について、説明をお願いします。

ア 第32回日立市民凧あげ大会の開催について

郷土博物課長 この大会は、参加した市民の皆さんに凧あげを楽しんでいただくイベントではございますが、主催団体の一つであります八つ凧保存会の八つ凧の模範演技や、手作り凧を持参した方への表彰なども用意しています。

日時は、令和2年1月11日(土)、午前10時受付開始となります。会場は久慈川河川敷運動場で、参加費は無料です。

中学生以下の方には参加賞としてパンダ凧をプレゼントすることとしておりますが、これは日立市日中友好協会からの協賛となっております。

イ 第20回日立さくらロードレースの出場者募集について

スポーツ振興課長 実施日は、令和2年4月5日(日)で、例年通り、日立さくらまつりイベント日の2日目に実施する予定です。

種目は、ハーフマラソン、10キロ、5キロ、2.2キロ、

1. 8キロで、6区分30種目となります。

申込期間は、12月25日から2月3日まで、インターネットと電話で受付しますが、日立市ふるさと納税をしていただいた方への返礼品としても申しただけようになっています。

委員 参加賞がいつもTシャツとタオルですので、ふるさと納税をされた方への返礼品のように、走者の方にも日立市の地元のものを選ぶようなオプションはないのでしょうか。

スポーツ振興課長 残念ながらそのようなオプションはなく、給水所などではバナナなどの配布をしておりますが、参加賞としては引き続きTシャツとタオルという状況です。

県内他市の状況としては、勝田マラソンでは「完走いも」、水戸黄門漫遊マラソンでは「かんそう梅」を配布しています。その他、特産品、名産品を配布する大会はございますが、さくらロードレースについては、予備を含めると1万8,000もの数を用意する必要があり、知恵を絞る必要があると考えています。

ただし、桜の下や海の上を走ることができるというレースの魅力とプラスして、参加賞についても魅力をつくり、ますます参加者を増やしていけるよう、日立市体育協会と協議を深めていきたいと思えます。

委員 Tシャツもうれしいですが、次が20回目ということで、全て参加した方は20枚になってしまいますので、他市から来られた方には地元の魅力を伝えられるものを渡せるよう、検討いただければと思います。

(8) その他

教育長 それでは、他にある方はいらっしゃいますか。

教育部長 教育長の異動について、御報告いたします。

中山教育長は、12月24日に任期満了を迎えられ、御退任されることとなりました。

後任については、前駒王中学校校長である折笠 修平氏が、12月25日付けで、就任いたします。

教育長 只今、教育部長から御報告がありましたとおり、平成23年12月から通算で3期8年の任期を、12月24日をもって満了いたします。

これまでの皆様の様々な御指導、お力添え、そして、教育委員会

におきましては、大変活発で真摯な御議論をいただきましたことを改めて御礼申し上げたいと思います。

さらに、教育委員会各課所長におきましても、これからも様々な御提案や協議案件があると思いますが、どうかその先の施策や事業にいかしていただき、ぜひ子どもたち、各学校、生涯学習、スポーツ振興、様々な分野で実現していけるようお願いしたいと思います。

私もこの8年間、「すべては子どもたちのために」、「いいとこ発見 夢づくり」という想いの下、教育に携わってきました。学校でも、各先生方の間でも、実現されていることに大変感謝しております。

最後になりますが、教育委員の皆様におかれましては、今後も忌憚のない御意見を頂戴したいと思います。

そして、ここにいらっしゃるお一人お一人どうぞ健やかに、幸せに、楽しい日々を過ごされ、ますます御活躍されますよう、教育委員会がますます発展されますよう、そして、ここで育つ子どもたちが、未来を拓く人たちとして、日立市、さらには、国や全世界を拓いていく人になっていくことを心からお祈り申し上げまして、お礼のあいさつとさせていただきます。

4 次回の教育委員会の日程について

教 育 長 それでは、次回の教育委員会定例会の日程について、総務課長からお願いします。

総 務 課 長 令和2年1月23日（木）午後1時30分から、日立市役所4階庁議室で開催予定です。

5 閉 会

教 育 長 以上をもちまして、教育委員会12月定例会を終了します。

以 上